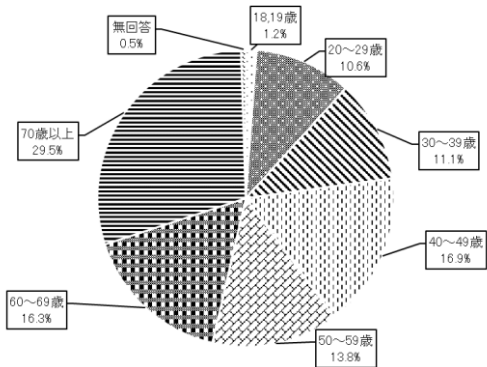


令和3年度県政世論調査結果（概要）

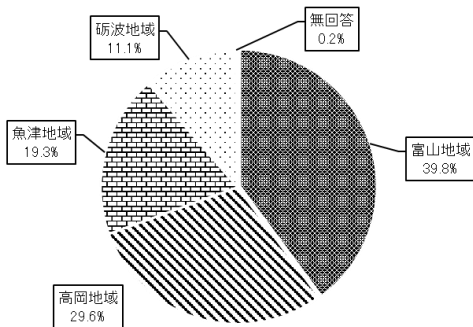
<調査の概要>

- 1 調査対象 県内に居住する満18歳以上の男女4,000人
- 2 調査期間 令和3年8月12日～9月6日
- 3 調査方法 郵送調査
- 4 回収数(率) 2,161人 (54.0%) (10月1日時点)  
 ※うちWEB回収 520 (全回収数の24.0%)  
 <R2年度: 2,155人 (53.9%)  
 ※うちWEB回収272人 昨年度より248人増>

5 年代・地域別  
(世代別)



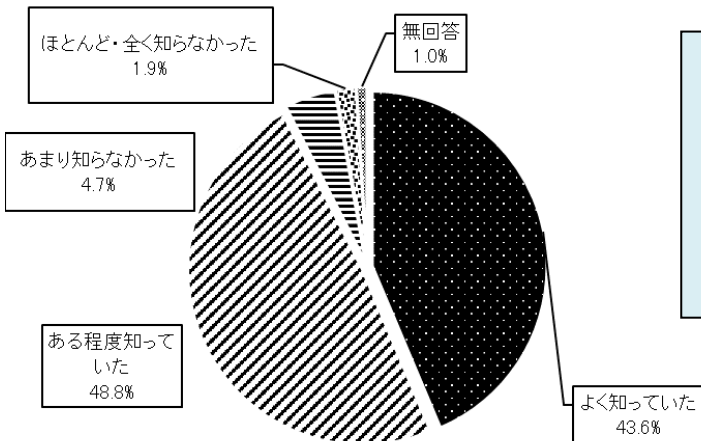
(地域別)



食品ロスの削減について

(1) 食品ロスの認知度について (単一回答)

・『よく知っていた』と『ある程度知っていた』で9割を超え、前回より8.4ポイント上昇した。



よく知っていた	43.6%	(30.2%)
ある程度知っていた	48.8%	(53.8%)
<b>小計</b>	<b>92.4%</b>	<b>(84.0%)</b>
あまり知らなかった	4.7%	(11.9%)
ほとんど・全く知らなかった	1.9%	(3.3%)
<b>小計</b>	<b>6.6%</b>	<b>(15.2%)</b>

※ ( ) 内は前回調査 (R02) の結果

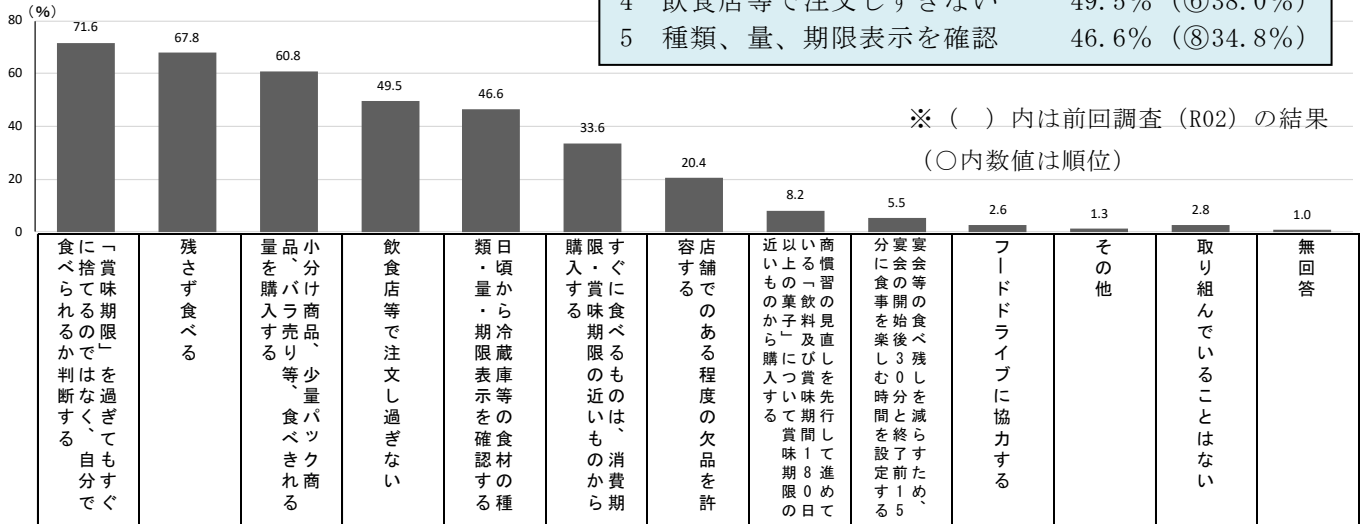
(参考) 食品ロス問題を認知し、削減に向けて何らかの取組みを行っている人の割合

	H29	H30	R1	R2	R3
県	64.0%	70.1%	80.9%	81.3%	90.7%
国	71.8%	71.0%	76.5%	76.6%	未発表

(2) 食品ロスを減らすために取り組んでいることについて（複数回答：いくつでも）

・『自分で食べられるか判断する』が1位、次いで『残さず食べる』、『食べ切れる量を購入する』の順となった。概ね、前回より取組みの割合が高くなっている。

1	自分で食べられるか判断する	71.6%	(①62.9%)
2	残さず食べる	67.8%	(②61.1%)
3	食べ切れる量を購入する	60.8%	(④56.7%)
4	飲食店等で注文しすぎない	49.5%	(⑥38.0%)
5	種類、量、期限表示を確認	46.6%	(⑧34.8%)



※「3015（さんまるいちご）運動」とは、立山の標高3015mにちなみ、「30」と「15」をキーワードにした富山型の食品ロス削減運動。

〔食べきり3015運動〕：宴会時において、開演後30分と終了前15分に自席で料理を楽しむ時間を設定し、食べきる運動。

〔使いきり3015運動〕：毎月30日と15日に家庭の冷蔵庫等をチェックし、食材を使い切る運動。

※「フードドライブ」とは、家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている福祉団体やこども食堂などに寄付する活動。